

県立みはま支援学校

実施日時	令和元年 12 月 20 日（金）
参加者	生徒 22 名、教職員 13 名 計 35 名
実施内容	避難カードの作成、災害用伝言ダイヤルの確認、美浜町役場防災企画課「おはなし出張講座」、防災マップづくり

ねらい

- 1、地震や津波などの自然災害に備え、防災意識を高める。
- 2、登下校時に災害にあったとき、とるべき行動及び自分で判断する力を高める。
- 3、防災マップの作成を通して、自分で考えて避難する意識をもつ。

主なプログラム

- 1、防災スクールの説明
- 2、避難カードの作成及び災害伝言ダイヤルの確認
- 3、美浜町役場「おはなし出張講座」
- 4、防災マップづくり
- 5、防災リュックの点検
- 6、防災スクールのまとめ

概要

- 1、全体で本日の学習内容を確認した。
- 2、各クラスに分かれ、①緊急連絡先②自宅にいる場合の避難所/避難場所③学校にいる場合の避難先をそれぞれワークシートに記入。命を守るために、予め家族と避難場所や避難経路等を話し合うことが大切であることを指導した後、自

然災害があったときにメッセージを残せる「災害伝言ダイヤル」について確認。

- 3、美浜町役場防災企画課の担当者（2名）より、災害時の避難方法について講義をしてもらう。その中で、津波襲来後の被害の様子や地震発生後の本校の津波における浸水状況等について映像を視聴し、「いつ、どこにいても自分自身が率先避難者になる」ことを学習する。



- 4、講師先生に参加してもらい、4～5名のグループに分かれ、防災マップの作成に取り組む。上級生がリーダーとなり、設定された場所から、避難場所までの避難経路について話し合う。その後、全体発表を通じて情報の共有を行う。



5、防災リュックに必要な備蓄は入っているのか、賞味期限は切れていないか等を確認。実際に被災したときこれから必要な物品はなにか考察した。

6、防災スクールの学びをワークシートにまとめる。

参加者感想文

- 避難先の特定、災害時の電話の仕方、過去に日本で起きた災害、地震、津波の被害に対応すべき行動を学んだ。
- 近くの避難所をさがして、そこに避難すること（災害時）を学んだ。
- 防災の大切さを学んだ。
- 今後家族と話し合いをしようと思う。
- 地震は怖い。
- 地震、津波から身を守ることにわかった。
- 地震の恐ろしさについて学んだ。
- 自分の命は自分で守る。

成果と課題

【成果】

- 美浜町役場防災企画課担当者の講義及び助言により、生徒の防災意識を高めることができた。御坊・日高地区の津波浸水被害についての映像を見ることで、津波の恐ろしさを実感することができた。また、防災マップの作成において、参加生徒が少人数であり、手厚い助言となり理解を深めることができた。
- 自主通学をしている生徒が中心となって、登下校時に災害が起こった設定で、防災マップを作成した。「避難場所ってどこにあるのだろうか?」「この道は細い」「避難場所だけど、低い建物だ」等、上級生を中心に情報共有することができた。様々な話し合いを通して、「地震が起きたら、高い場所へ逃げる」意識が高まり、災害が起こったときの自分の行動について熟考することができた。

【課題】

- 防災マップの作成において、実際に経路を歩く活動を取り入れるとより理解が深まった。道路の危険なところや昼間と夜間の違いを知ることで、今後普段から危機感を持って、注意して生活できる意識が高まったと思われる。
- 生徒の実態が多様化する中で、この実態に応じた適切な課題設定が必要である。